

2020年9月11日
北近畿経済新聞(2面)に掲載されました

日東精工グループが新展開

日東公進

異品検査を自動化

一方、国内では連結子会社の日東公進(株) (本社・綾部市城山町、澤井健社長) がこのほど、ロボットビジョン

(ロボットの視覚機能) を搭載した部品供給機を写真、日東精工提供を発売した。あらゆる分野の異品検査を自動化するとともに、オプション機器と組み合わせること袋詰め作

業などを省力化する。日東公進は省力化機械や電気・画像システムに関する技術を持

ち、包装機器や検査装置、自動化装置を強みに事業を展開。部品に振動を加える一般的な部品供給機は使用できない素材があるため、得意とする画像システムを用いて新たな製品を開発した。

寸法は幅1.5m×奥行き1.3m、高さ2mで、コンパクトに設計。ベルトコンベアを流れる部品の異品検査や仕分けができ、同社の既存製品と組み合わせれば指定した数量での袋詰めや袋への印字、重量検査が可能となる。

〔樋口〕

